

# ファシリテーター養成プログラム作成のための調査研究

## 調査研究の概要

こどもや若者が意見を言いやすい環境をつくり、こどもや若者の声を引き出す『こども意見ファシリテーター』を養成するためのモデルプログラムを作成する。作成したモデルプログラムについては、国による活用のほか、地方公共団体にも周知する。

## 調査研究の流れ

- ◆ こどもや若者が意見を言いやすい安全で安心な環境を全国的に整備



# ファシリテーター養成プログラム作成のための調査研究

## 文献調査(既存の人材養成講座)

民間団体や自治体で実施している、ファシリテーターもしくはそれに類似する人材の養成事例やこどもに関わる養成講座を調査。モデルプログラムの養成方針案や骨子作成に向けて、検討事項の整理をした。

#	講座名称	実施主体	#	講座名称	実施主体
1	わかもの参画ファシリテーター	NPO法人 わかもののみち	9	子どもアドボカシー基礎講座	長崎県
2	教育ファシリテーター養成講座 基礎編	NPO法人 みらいずworks	10	子どもアドボケイト養成講座 (基礎編)(意見表明支援員)	宮城県(委託:一般社団法人 子どもアドボカシーセンター みやぎ)
3	わくわくナビゲーター養成講座 基礎編	NPO法人 キーパーソン21	11	子どもアドボケイト養成講座 (実践編)(意見表明支援員)	宮城県(委託:一般社団法人 子どもアドボカシーセンター みやぎ)
4	わくわくナビゲーター養成講座 応用編	NPO法人 キーパーソン21	12	ファシリテーション基礎講座	特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会
5	ファシリテーター養成講座	一般財団法人あしなが 育英会	13	ファシリテーション公開講座 (実践編)	特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会
6	こども哲学ファシリテーター養成 講座初級編	特定非営利活動法人 こども哲学・おとな哲学 アーダコーダ	14	チャイルド・ファシリテーター 講座	石巻市子どもセンター (共催:公益社団法人 セーブ・ザ・ チルドレン・ジャパン)
7	ファシリテーション研修「次世代 リーダー教育インターンシッププ ログラム」 宿泊型キャンプコース	特定非営利活動法人 フリー・ザ・チルドレン・ ジャパン			
8	ファミリーサポート提供会員	東京都福祉保健局			

## 有識者ヒアリング・自治体ヒアリング・視察

文献調査をもとに作成した養成方針案について、こどもの権利、こども・若者対象のファシリテーション、一般ファシリテーション、教育プログラム開発の分野の有識者へのヒアリングを実施。また、独自に人材養成もしくは外部連携により養成している自治体等にヒアリングを実施。加えて、可能な範囲で実際の研修を視察した。

#	カテゴリ	所属	役職	氏名(敬称略)	取組概要
1	【こどもの権利】有識者	公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン	専務理事・事務局長	高井明子	東日本大震災復興支援事業では「チャイルドファシリテーター」を養成し、復興に向けた子どもの意見表明活動を実施した。「子ども・ユースキャラバン2022」では全国4カ所で子どもの声を聴くイベントを実施。各地域の連携団体に対してファシリテーターとして活動する研修を実施。
2	【こども・若者】 ファシリテーション実践・養成者	認定NPO法人 キーパーソン21	代表理事	朝山あつこ	主に学校や地域の居場所でこどもの可能性を引き出すプログラムを提供し、プログラムを実施するナビゲーターを養成。少人数やクラス単位などの場を想定した研修、役割のレベルに応じた段階的な実践トレーニングを実施。
3		兵庫県立大学 環境人間学部／ソーシャルメディア研究会	教授	竹内和雄	ソーシャルメディア研究会は、学生メンバーが講師やファシリテーターとなり、出前授業や中高生対象の「スマホサミット」を各地で開催。学生同士の研修会等により人材を育成。
4	【一般】 ファシリテーション実践・養成者	特定非営利活動法人 こども哲学・おとな哲学 アードコーダ	代表	角田将太郎	こどもの哲学対話の実践と研究を通じて、配慮し合いながら共に考える場づくりを探究。ファシリテーター養成講座は、ファシリテーションの体験を重視し、実践的な内容で実施。
5		特定非営利活動法人日本 ファシリテーション協会	前会長 理事	竹本記子 山田真司	基礎編は座学で、ファシリテーションとは何か、ファシリテーションスキルを学び、実践編で模擬会議などを実施
6	その他教育プログラム 作成・実践者	ミテモ株式会社	取締役	飯田一弘	ファシリテーションを含め多様な人材育成・スキルアップ研修プログラムや教材を開発、実践。
7	自治体等	磐田市(政策推進課)			
8		川崎市(川崎市子ども会議事務局)			
9		児童健全育成推進財団			



ヒアリング結果を踏まえて論点を抽出し、養成方針を決定

# モデルプログラム案の開発／教材の開発

## モデルプログラム案が想定する受講対象と学習のゴール

**受講対象：** 行政職員や児童館等こども・若者の居場所の職員、こども・若者の活動に関わるNPO団体等の職員やボランティア、学生等。こどもと関わる経験やファシリテーション経験は多様であることを想定。

**学習ゴール：** 本プログラムでは、主として対面やオンライン等の場で、複数のこども・若者と対話するグループファシリテーションができる人材を養成することをゴールとする。

## モデルプログラムにおけるカリキュラムの全体構成

	事前学習	集合型講座
学習の狙い・学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 知識として学ぶ必要がある内容については、受講者が各自で事前に学習しておくことを前提とする。 (主な学習内容)</li> <li>✓ こども意見ファシリテーターがなぜ重要なのか？</li> <li>✓ こどものセーフガーディング</li> <li>✓ ファシリテーターが担うべき役割とは？</li> <li>✓ 基礎的スキル(傾聴力、質問力等) など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1日(8時間程度)の集合型の講座。実践的「ワーク」を中心とし、事前学習内容の自己理解を深め、実践力を養うことを目的とする。 (主な学習内容)</li> <li>✓ アクティブリスニングスキル(アイコンタクト・あいづち・相手に合わせる(ペーシング)・オウム返しなど)</li> <li>✓ 模擬会議(1組4～5人で、こどもを想定した会議のファシリを体験し、振り返りを行う) など</li> </ul>
使用する教材・学習方法	<p>テキスト教材</p> <p>動画教材</p> <p>動画教材は、テキスト教材の一部を講師が解説したり、具体的なこどもが参加する対話の場面(イメージビデオ)を流したりする内容。</p>	<p>対面講座</p> <p>オンライン講座</p> <p>教材は、事前学習で用いたテキスト教材に加えて、当日投影するスライド資料、配布するワークシートを用いる。</p>

# モデルプログラム案の開発／教材の開発

## 教材(事前学習教材)の構成 \*試行的事業前時点

4大項目	小項目
1章 はじめに	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ こども基本法の理念に基づいた、こども・若者の意見聴取とは? ●</li> <li>✓ 本事業の位置づけ ●</li> <li>✓ 政策決定プロセスにおけるこどもの関わり方 ●</li> <li>✓ なぜ意見を聴くことが大事なのか(意見反映の意義) ●</li> <li>✓ ファシリテーターが関わる意義 ●</li> <li>✓ ファシリテーターに求める資質</li> <li>✓ 想定するファシリテーション場面</li> </ul>
2章 ファシリテーション全体像	<ul style="list-style-type: none"> <li>A. こどもへのファシリテーションシジョン</li> <li>A-1. こども意見ファシリテーターの役割・求められるスキル</li> <li>A-2. ファシリテーションの種類・話し合いの種類(4つの類型)</li> <li>A-3. 場の基本的な進め方</li> <li>A-4. 参考 実際のファシリテーション画面(こどもファシリテーションのイメージをつかもう)●</li> <li>B. こども意見ファシリテーターの基本姿勢</li> <li>B-1. こどもの権利:こどもの権利とは?4つの柱、条約</li> <li>B-2. セーフガーディングの考え、具体的な行動 ●</li> <li>B-3. みんなのウェルビーイングを大切に ●</li> <li>B-4. 差別のない空間づくり</li> <li>B-5. こどもの発達段階</li> <li>C. 場づくり(チェックイン)</li> <li>C-1. 会場レイアウト</li> <li>C-2. アイスブレイク</li> <li>C-3. ルール:グランドルール</li> </ul>
3章 コミュニケーションスキル	<ul style="list-style-type: none"> <li>A. ファシリテーターのコミュニケーションスキルとは ●</li> <li>B. 傾聴力</li> <li>B-1. 傾聴力とは ●</li> <li>B-2. 聞いていることを意識的に相手に伝える ●</li> <li>B-3. 言葉以外も受け取る(キャリブレーション) ●</li> <li>B-4. 判断をしないで聞く、忍耐 ●</li> <li>C. 質問力</li> <li>C-1. 質問力とは ●</li> <li>C-2. 言葉の本当の意味を知る(チャンクダウン、本人に聞こう) ●</li> <li>C-3. 相手の状況に合わせて投げ掛ける(オープン・クローズド)●</li> <li>C-4. 効果的な質問を投げ掛ける ●</li> <li>D. グループで会話をする</li> </ul>

大項目	小項目
4章 話し合いの進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>A. 効果的な話し合いのステップとは ●</li> <li>A-1. 情報の「共有」 ●</li> <li>A-2. 意見の「発散」 ●</li> <li>A-3. 意見の「収束」 ●</li> <li>B. 場の終わらせ方 ●</li> </ul>
5章 演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>こんなときどうする? (ファシリテーションの場の状況をストーリーで見る。)</li> </ul>
6章 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>テキストを読み終えて、話し合い(振り返りの要素)に基づき、自己の振り返りを行う</li> </ul>
7章 様々な場面に対応する	<ul style="list-style-type: none"> <li>A. 自分の意見が採用されなかった子のケア</li> <li>B. メモや板書の必要性ややり方、コツ。</li> <li>C. 共有・発表のしかた</li> <li>D. オンラインのファシリテーションのポイント</li> <li>E. セーフガーディングポリシーに反する人を見つけたら (こどもが困ったときに意見聴取の場面以外の大人に相談できる体制の確認)</li> <li>F. アイスブレイク集</li> </ul>

凡例: ● 動画教材に含まれる内容

# モデルプログラム案の開発／教材の開発

## 集合型講座の構成 \* 試行的事業前時点

### <午前>

経過時間	実施方法	項目	内容
0:00-		イントロダクション	・本講座のゴール、自己紹介、アイスブレイクなど
0:20	ワーク	事前学習の振り返り	・事前学習の感想の共有、自分自身のバイアスに気づいたり、自身が特に学びたいポイントを洗い出し
0:40	講義	講座の流れと頭出し 内容把握と、子どもと関わるうえで必ず理解してもらいたいことの確認	・ファシリテーションとは、話し合いの進め方 ・こどもの権利、セーフガーディングについて
1:10		バッファ	(開始時間や人数に合わせてここで時間調整)
1:20		休憩	
1:30	講義 +ワーク	基礎的スキル①	・傾聴力の要素(アイコンタクト・あいづち・ペーシング・オウム返しなど)を確認し、一つひとつ実践練習
2:00	講義 +ワーク	基礎的スキル②	・質問力の要素(質問の種類と意図、チャンクダウン、参加者同士を繋げるなど)を確認し、一つひとつ実践練習
3:15		振り返りorバッファ	午前の振り返り(予備時間)
3:30		お昼休憩	

### <午後>

経過時間	実施方法	項目	内容
4:30	ワーク		・アイスブレイク
4:45	講義		・話し合いの進め方、メモの取り方など、ファシリテーションに必要な要素を確認
5:05	ワーク	模擬会議①	同上
5:30	ワーク	模擬会議②	同上
5:55		休憩	
6:05	ワーク	模擬会議③	同上
6:30	ワーク	模擬会議④	同上
6:55		休憩	
7:05	ワーク	模擬会議⑤	同上
7:30	ワーク	振り返り	・今日一日の振り返り
7:50	講義	まとめ	・アナウンスなど
8:00		終了	

\* 対面講座とオンライン講座は、原則として同様の内容とし、対面ではオンライン時のコツを説明するなどして、場による違いを補足する。

# モデルプログラム案の開発／教材の開発

## 試行的事業の実施

### ■ 目的

本調査研究で作成したモデルプログラム案及び教材に基づいて養成講座を試行し、プログラムや教材の内容について検証すること。

### ■ 対象

検証目的のため、モデルプログラム案が想定する受講者であるファシリテーション経験、こどもと日常的に関わる経験、こども意見ファシリテーションの経験について経験がない人及び経験がある人の双方を対象とした。

### ■ 開催日時・参加者数

○ 対面回:2023年12月18日(月) 9～17時  
23名参加

○ オンライン回:2023年12月19日(火) 9～17時  
15名参加

各回終了後、17時～18時を振り返りの時間としたほか、参加者アンケートを実施し、**その結果を踏まえてプログラム・教材を修正・最終化中。**

準備中のこども家庭庁の養成講座をより良くするために力を貸してください！

## こども意見 ファシリテーター 養成講座

体験モニター  
募集！



### 日時/場所

① 2023年12月18日(月)：会場  
(〒100-6090 東京都千代田区霞が関3-2-5  
霞が関ビルディング14階 こども家庭庁大会議室)

② 2023年12月19日(火)：オンライン

### 時間

午前9時～午後6時  
※午後0時～午後1時はお昼休憩です  
※午後5時～午後6時は講座後の意見交換会の実施を予定しています。

### 講師

認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

### 受講料

無料

### 募集人数

①会場20名、②オンライン20名  
※応募者多数の場合は抽選といたします  
(年代やご経験に応じて調整させていただきます)  
※会場参加の方で希望する方には交通費をお支払いします(上限2万円)

### 講座内容

傾聴力と質問力を磨き、模擬会議を通してこどもの意見を引き出すファシリテーションを学ぶ。

養成講座は、事前学習の教材(一部オンデマンドあり)を前提につくられた演習講座です。

教材は、こどもを対象にしたファシリテーターが求められる背景、こども意見表明ファシリテーターとは何かといった概念をはじめ、ミニワークや演習を通して、ファシリテーションスキルを丁寧に学べる内容になっています。

### 応募条件

- ① 18歳以上
- ② 事前学習教材を学習すること  
(教材及びオンデマンド教材  
(約3～4時間))
- ③ 講座に1日参加すること
- ④ 講座受講後の意見交換会に参加  
すること(同日午後5時～6時)
- ⑤ 講座終了1週間以内に、  
アンケートに回答すること

### 応募期間

2023年11月1日(水)  
～11月24日(金)

### 応募方法

申込フォームから  
ご応募ください。



こども意見表明ファシリテーターは、こどもの意見が聴かれ、尊重される社会に向けて、国や地方自治体がこどもの意見を聴く場において、こどもが意見を言いやすい環境や雰囲気をつくり、こどもが意見を伝えるサポートをする役割を担います。こども家庭庁が養成講座のモデルプログラムを作成して全国的な養成を支援します。

### 主催

株式会社NTTデータ経営研究所

本講座は、ファシリテーター養成プログラム作成のための調査研究(こども家庭庁委託事業)の一環で、NTTデータ経営研究所がフリー・ザ・チルドレン・ジャパンと連携して実施しています。

### 問い合わせ先

Email : miras@nttdata-strategy.com  
Tel : 09016053078

【対応時間 9:30～17:00】

担当：三浦、小林

# ファシリテーター養成プログラム作成のための調査研究

## 本調査研究の成果品

調査研究を包括する報告書に加え、こども意見ファシリテーター養成講座を開催するにあたって必要なパッケージとして、モデルプログラム(講座実施ガイド含む)、教材(テキスト・動画)、講師用投影資料(ワークシートを含む)を作成する。(下表3~4)

成果品	内容	
1. 調査研究報告書	調査研究全体の報告書	
2. 調査研究報告書概要版	報告書の要点をまとめた概要版	
3. モデルプログラム	講座の狙い、受講対象、カリキュラムに加え、養成講座開催にあたって必要な項目(実施体制や講師の選定、開催準備、事後フォロー等)を含めた講座の実施ガイド	
4. 教材	・テキスト教材	こども意見ファシリテーターが学ぶべき項目をすべて含んだ事前学習教材
	・動画教材	事前学習の中で、特に重要な点を解説したり、実際の場면을視覚的に学ぶためのオンデマンド教材
	・講師用投影資料	講座を実施する講師が、集合型講座において講義する際に活用する投影資料(ワークシートを含む)